

倉敷教会の歴史的基層研究

塩野和夫

はじめに

日本基督教団 倉敷教会（以下、「倉敷教会」と略記する）が、念願の『倉敷教会百年史』¹⁾を刊行されたのは2011（平成23）年7月1日（教会創立記念日）である。2日後の7月3日（日）に開催された創立105周年記念礼拝では、前奏に続いてまず「百年史献本」で『倉敷教会百年史』を神の御前にささげて、一同感謝をささげた。けれども、「百年史献本」までの経緯は決して順調と言える歩みではなかった。

倉敷教会宮崎達雄牧師は、「序文」²⁾で百年史編纂委員会の困難な歩みを振り返って記している。

思い返せば、この百年史編纂の業は苦難の道のりでした。前任の柏木和宣牧師の在任時の2001年10月26日に第1回の編纂委員会を開催し、2003年度よりは月1回のペースで委員会を重ねてきました。2011年1月末の印刷業者への入稿までに、実に100回に及ぶ編纂委員会を開催したことになります。当初は倉敷教会創立100周年を迎えた翌年の2007年に発行の予定でしたが、この様に大幅に遅れてしまいましたことに対して、衷心よりお詫び申し上げます。発行を今か今かと待ち望んでおられた方々には大変ご心配をおかけし、又、叱責をいただきました。編纂委員会のメンバーも正直いつになれば発行

1) 倉敷教会百年史編纂委員会(編)『倉敷教会百年史』日本キリスト教団倉敷教会, 2011

2) 倉敷教会百年史編纂委員会(編), 前掲書, i - ii 頁

2011. 7. 3	No.14
聖霊降臨節第4主日	
創立105周年記念	
(百年史献本)礼拝	
(午前10時15分)	
司式者	山口伝道師
前奏	玉井和子
百年史献本	天野宗幸
招詞	司式者
讚美歌 412	— 同
主の祈り (93-5A)	— 同
交読文 8、詩編23編	— 同
聖書 ローマ5章1~11節	
(新共同訳 p.279 口語訳 p.238)	司式者
教会祈禱	宮崎牧師
賛美歌 I-194	拡大聖歌隊
説教 「十字架の信仰」	
	田井中純作名誉牧師
祈禱	— 同
讚美歌 II-185	— 同
転入会式	司式 宮崎牧師
聖餐式 81	司式 柏木和宣前牧師
祝福祈禱	司式 宮崎牧師
倉敷教会宣教2世紀に向けての メッセージ	鈴鹿しずか
献金	— 同
感謝祈禱	礼拝当番
報告	司式者
煩栄 24	— 同
祝福	田井中純作名誉牧師
讚美歌 91	— 同
◎讚美歌を歌うとき、立ちにくい方は座つ たままでお歌いください。	
◎「主の祈り」は週報の裏面に記載していま す。	

創立105周年記念礼拝 プログラム 2011年7月3日

できるのか、天を仰ぎ、溜息をつくことも度々あり、迷走し、暗中模索の歩みが続けました。

ところで、宮崎牧師はやはり「序文」で『倉敷教会百年史』の特色を次の様にも語っている。

編纂委員会のメンバーは、牧師を含め教会史編纂に長けたものは一人もいませんでした。素人集団での編纂であり、信徒が分担して執筆にあたりまし



日本キリスト教団 倉敷教会100周年記念

た。それ故に内容的には不備な点があったり、統一性に欠ける箇所があるかと思えます。しかし、この編纂は、倉敷教会の伝統である旧組合教会・会衆主義教会の信徒の力を生かした、よき一つの方法ではなかったかと、密かに自負をしています。

百年史編纂委員会の助言者として筆者が依頼を受けのは、2004（平成6）年4月である。早速、倉敷教会を訪ねて2004年5月に第1回学習会、2005年6月に第2回学習会を開いた³⁾。ところが、倉敷教会創立百周年記念礼拝を目前にした2006（平成8）年6月に脳梗塞を患い、倉敷へ行けなくなっただけでなく、助言者としてのお手伝いもできなくなってしまった。それだけに、妻塩野まりの同伴で久しぶりに倉敷教会を訪ね、創立105年周年記念礼拝に出席し、「百年史献本」の場に臨んだ時には心が震えて感動した。

ところで、宮崎牧師が「序文」に記した「倉敷教会の伝統」とは何を意味するのか。倉敷教会が日本組合基督教会（以下、「組合教会」と略記する）に所

3) 第1回学習会は2004年5月15日(土)に「会衆派教会の歴史と倉敷教会の設立」をテーマに開催した。第2回学習会は2005年6月25日(土)で、「日本組合教会史と倉敷教会史」をテーマとした。本論文は「日本組合教会史と倉敷教会史」の構想を生かしつつ、大幅に書き換えたものである。

属した期間は30年余に過ぎない。1941（昭和16）年に創立された日本基督教団⁴に所属して70年に及ぶ。すでに時間的には日本基督教団に所属している期間がはるかに長くなっている。それでもかつて組合教会に所属していた日々が「倉敷教会の伝統」となり、この真実によって教会はしっかりと自己同一性を保持している。確かに組合教会に属していた日々は時間的には過ぎ去ったが、この事実は倉敷教会がそれらの日々の歴史的意味を失ったことを意味しない。そもそも共同体は歴史の積み重ねによって形成されるため、歴史的出来事を共同体の内実とする。だから、「旧組合教会・会衆主義教会の信徒の力を生かした」教会形成が、「倉敷教会の伝統」となるのである。

そこで、『倉敷教会百年史』が刊行されたこの時に、倉敷教会の歴史的基層を形づくる組合教会に所属した時期を分析し、その特色を明らかにしたい。

1. 資料と研究方法

(1) 資 料

組合教会に所属した時期の倉敷教会を考察するにあたって、基本資料として『倉敷教会百年史』を使用し、高戸猷（編）『倉敷基督教会畧史』⁵（以下、『倉敷教会畧史』と略記する）と竹中正夫『倉敷の文化とキリスト教』⁶を補助資料とする。歴史研究において通常このような資料の扱いはしない。資料的価値は言うまでもなく1935（昭和10）年に発行された『倉敷教会畧史』にあり、これを踏まえて『倉敷の文化とキリスト教』は執筆された。そして、『倉敷教会百年史』は『倉敷教会畧史』と『倉敷の文化とキリスト教』を基礎的資料として編纂された。したがって、歴史研究で重視されるべきはまず『倉敷教会畧史』である。しかし、本稿は百年史編纂作業の一環として行った学習会での発

4) 日本基督教団は1941年6月に創立されたが、当初は部制を採り実質的に旧教派の組織は存続した。しかし、1943（昭和18）年4月に部制が廃止されると、旧教派の組織的な活動は消滅した。

5) 高戸猷（編）『倉敷基督教会畧史』倉敷基督教会、1935

6) 竹中正夫『倉敷の文化とキリスト教』日本基督教団出版局、1979

表に基づいている上に、『倉敷教会百年史』の刊行に触発されて着手した。このような事情から基本資料として『倉敷教会百年史』を用いる、そこでまず、資料の内容と特色について簡潔にまとめておきたい。

『倉敷教会百年史』の編集委員は甲斐田巖・阿佐見和夫・河手純子・萩原直幸・藤岡シゲ子・廣田誠一郎・更井勝子・中務友芳・松島重夫・佐伯元・宮脇俊昭・佐野宣雄・今村稔・金子直子・樺野潤の15名であり、倉敷教会記録委員会は甲斐洋子・小笹静子・西松時江・東谷香保子・藤田繁子・山合恭子の6名で構成されていた。監修を担当した牧師は宮崎達雄・山口純弘・大澤香である。さらに外部から監修者として竹中正夫、助言者として塩野和夫が協力している。内容は「第1部 本篇」「第2部 個別テーマ」「資料」からなる。「第1部 本篇」は通史であり、構成は『倉敷教会畧史』『倉敷の文化とキリスト教』を参考にしながらも、歴史の流れに即した時期区分をしている⁷⁾。「第1部 本編」の際立った特色は教会日誌風の執筆方法にある。まず、改行して太字で西暦年だけを書く。改行して月日を太字で書き、一字空けてその日の出来事を記す。したがって、本編の基調は出来事史である。「第2部 個別テーマ」では倉敷教会が関わった重要な8項目を取り上げている⁸⁾。「資料」は丁寧に調査された教会関係者や統計データなど5項目から構成され、教会の歩みが読み取れるようになっている⁹⁾。なお巻末に「付録 仮想座談会 スロープから汽車が見え

7) 時期区分に基づく章立ては次の通りである。

「第1章 プロテスタントの教え倉敷へ（1878～ ）」

「第2章 真摯な伝道と苦難（1906～ ）」

「第3章 近代教会の基礎固め（1922～ ）」

「第4章 戦時下の教会（1926～ ）」

「第5章 敗戦後の倉敷教会（1945～ ）」

「第6章 宣教の充実に向かって（1961～ ）」

「第7章 宣教活動の多様化（1994～2006）」

8) 8つのテーマは次の通りである。「倉敷水島教会」「倉敷キリスト会館（倉敷クリスチャンセンター）」「パイプオルガン設置」「教会墓地、納骨堂建設」「倉敷平和教会設立から解散まで」「倉敷教会エレベーター建設」「安息日学校、日曜学校からCS（Children's Service）への歩み」「竹中幼稚園」。

9) 資料の項目は次の通りである。「歴代の教師」「受洗者等名簿」「現住陪餐会員等名簿」「統計データ」「年表」。

岡山地方の教会研究に取り組む。こうして、1959（昭和34）年に「岡山県における初期の教会形成」を発表した。以来、折々に倉敷教会に足を運んで教会史編纂作業に協力し、1979（昭和54）年に『倉敷の文化とキリスト教』を出版した¹²⁾。構成はおおよそ時系列にまとめられているが¹³⁾、内容には竹中の研究方法と関心が生かされている。倉敷の文化研究と信徒の叙述である。こうして、『倉敷の文化とキリスト教』は倉敷教会史を主軸としながらも、地方都市の文化やそこで生き交流した人々の姿を取り入れた研究書となっている。

(2) 研究方法

組合教会に所属した時期の倉敷教会を分析しその特色を探るために、どのような研究方法が妥当なのか。この問いに対して、組合教会の歴史的四類型¹⁴⁾との比較検討という方法で応えたい。すなわち、組合教会の歴史的四類型とそれに対応する倉敷教会の各時期とを比較検討する。その上で、倉敷教会史の歴史的基層にある個性を明確にするのである。そこで、まず組合教会の歴史的四類

12) 竹中正夫，前掲書，13-14頁，573-574頁。

13) およその時系列に整えられた章立ては次の通りである。

- 第一章 倉敷の風土
- 第二章 種まきのころ
- 第三章 明治期における岡山・倉敷の信徒の交わり—草創期の人びと（大原・石井・林の三家の場合）—
- 第四章 新川の奥に
- 第五章 初穂の群れ
- 第六章 二粒の麦
- 第七章 二つの石—竹中幼稚園の誕生—
- 第八章 忘れ得ぬ人びと
- 第九章 「生命」の歩み
- 第十章 聖徒の交わり
- 第十一章 戦時下の教会Ⅰ
- 第十二章 戦時下の教会Ⅱ
- 第十三章 大原美術館と児島虎次郎
- 第十四章 文化をおもうところ—大原総一郎の思想—
- 第十五章 聖書と民芸

14) 参照。塩野和夫「日本組合基督教会の歴史的四類型」（『キリスト教史学』第50集，キリスト教史学会，1996，39-55頁）

型を概観しておきたい。

組合教会史の時期区分をまず「組合教会史の中から汲み出すことができ」、
「組合教会史の全体をバランスを崩さずに捉えることができる」教会法と教会
統計の研究によって行った¹⁵⁾。その結果、組合教会史は前史を含めて5つの時
期に区分出来た。

- 組合教会前史 (1869-1886)
- 組合教会史第1期 (1886-1903)
- 組合教会史第2期 (1904-1918)
- 組合教会史第3期 (1919-1935)
- 組合教会史第4期 (1936-1941, 41-43)

教会法と教会統計によって区分した各時期を直ちに歴史的類型とすることは
できない。なぜなら、そこでは歴史を構成する主要な要素である歴史的個性、
すなわち具体的な教会活動やそれを担った信仰者の生き方が捨象されているか
らである。そこで、組合教会史における教会活動や教会員の信仰生活と各時期
との対応を検討しなければならない。すると、両者に顕著な対応を見出すこと
ができる。すなわち、各時期にはそれに対応した個性ある教会活動や教会員の
信仰生活があって、それが時期ごとに変化している。そこで、組合教会の歴史
的四類型という概念を構築できる。なお、歴史的四類型と組合教会史の時期区
分との対応は以下の通りである。

- 組合教会の歴史的第1類型 組合教会前史・第1期
- 組合教会の歴史的第2類型 組合教会史第2期
- 組合教会の歴史的第3類型 組合教会史第3期

15) 時期区分の検討対象として教会法と教会統計に取り組んだ理由については、以下を
参照。塩野和夫『日本組合基督教会史研究序説』新教出版社、1995、191-194、297-304
頁。

組合教会の歴史的第4類型 組合教会史第4期

組合教会の歴史的四類型とそれに対応する倉敷教会史の時期を併記すると、次の通りである。

1	組合教会の歴史的第1類型に対応する時期 倉敷教会史第1章 プロテスタントの教え倉敷へ	1869-1886, 1886-1905 1878-1903
2	組合教会の歴史的第2類型に対応する時期 倉敷教会史第2章 真摯な伝道と苦難	1904-1918 1906-1921
3	組合教会の歴史的第3類型に対応する時期 倉敷教会史第3章 近代教会の基礎固め	1919-1935 1922-1925
4	組合教会の歴史的第4類型に対応する時期 倉敷教会史第4章 戦時下の教会	1936-1941, 1941-1943 1926-1945

両者の対応を見ると、1・2はほぼ時期的に一致している。それに対して3・4は10年程食い違っている。しかし、組合教会の歴史的第4類型は戦時下の組合教会を概念化している。したがって、第4類型と倉敷教会史の「第4章 戦時下の教会」とは内容において共通性がある。そこで、組合教会の歴史的四類型とそれに対応する倉敷教会史における各時期を比較検討する妥当性が認められる。

次に歴史的四類型と倉敷教会史の対応する各時期を比較する方法である。この点に関しては、組合教会史の歴史的四類型がすでに概念化されている点にまず注目したい。要するに、すでに概念化された組合教会史の歴史的類型を時期ごとに提示し、それに対応する倉敷教会史の各時期を比較検討するのである。これによって類型と共通する歴史的な倉敷教会の姿と相違する姿が浮かび上がる。これらを総合的に比較しながら分析し考察することによって、倉敷教会の歴史的基層に潜む特色に迫るのである。

2. 倉敷教会史の「第1期 プロテスタントの教え倉敷へ」¹⁶⁾

(1) 組合教会の歴史的第1類型

組合教会の教会法と教会統計研究によって区分された組合教会前史（1869-1886）と組合教会史第1期（1886-1903）にほぼ共通した教会活動と教会員の信仰生活を見出すことができた。そこで、これを概念化したのが組合教会の歴史的第1類型であり、以下の通りである。

第1のタイプ（歴史的第1類型）の基本的特質はきわめて明瞭である。キリスト教の伝道活動を教会の主要課題としたことがそれである。宇和島地方での最初の伝道活動から宇和島組合教会講義所の設置、宇和島教会の近接地伝道に一貫して認められたのが伝道への情熱と意志と活動であり、このような特質は同時期の組合教会に対応している。このタイプの教会ではキリスト教は伝道する宗教として受容された。当時の担い手にとってキリスト教の受容はその伝道活動に参加し協力することを意味した。またキリスト教の伝道活動の推進に大きく寄与したのは個人の伝道への意欲であった。たとえば、宇和島地方に初めてプロテスタントを伝えた今治教会の伝道活動グループの多くはその頃20代の青年であり、キリスト教に出会い触発されると彼らは伝道活動に従事した。このタイプの教会活動の特色は端的に宇和島教会の近接地伝道に見ることができる。すなわち、教会が立つ地域社会に限定されない広範な地域における伝道活動である。そこでは、教会は広範な地域で展開される伝道活動のための拠点であり、教会を送りだされた伝道者は地域社会からさらに広範な地域へ出かけ伝道活動を行った。しかし、伝道活動だけを主要課題としたキリスト教は、宇和島教会の場合がそうであったように、教会

16) 『倉敷教会百年史』の「第1部 本篇」は、「章」構成であった。ただし、それは時期区分に基づいた構成であるので、歴史的4類型との比較においてもこの区分を用いる。さらに便宜上、歴史的類型との比較においては、「章」に代えて「期」を入れる。つまり、「第1章 プロテスタントの教え倉敷へ」は「第1期 プロテスタントの教え倉敷へ」とする。

の経済的基盤を整えることに失敗した。この失敗が第2の教会類型への転換を要請していた¹⁷⁾。

組合教会の歴史的な第1類型はすでに設立されていた教会を前提として、その教会活動と教会員の信仰生活を対象に類型化している。ところが倉敷教会の場合、第1期を通じて教会はまだ設立されていない。要するに、第1類型と倉敷教会第1期では前提が異なる。前提は異なるが、倉敷にはやがて倉敷教会設立に連なる人々がすでに教会活動に参加し信仰生活を営んでいた。そこで教会設立に関する違いを踏まえた上で、「第1期 プロテスタントの教え倉敷へ」に登場する人々の信仰生活を組合教会の歴史的な第1類型と比較しながら、分析したい。

(2) 歴史的な第1類型から見る倉敷教会史第1期

倉敷教会史の第1期(1878-1905)において、岡山県下では次々と組合教会が設立されている¹⁸⁾。それにもかかわらず、倉敷に教会が設立されることはなかった。この間、組合系諸教会にとって倉敷は教会設立を直ちに目指す地域ではなく、伝道活動を展開する周辺地域であった。しかし、1880年代に倉敷を担当した伝道者¹⁹⁾と設置された講義所²⁰⁾を考慮すると、「第1期に倉敷に教会は設立されなかった」と断言する表現は適切さを欠くこととなる。1880年代には「倉敷において教会設立への試みはあった」のである。しかし、短期間に終わった伝道者の在任期間と頻繁な講義所の移転は、試みの失敗を語っている。

17) 塩野和夫「日本組合基督教会の歴史的な四類型」42頁。

18) 倉敷教会の第1期に岡山県下で設立された組合系教会は以下の通りである。
1880年 岡山教会、1882年 高梁教会、1884年 天城教会、1886年 落合教会、
1890年 津山教会、1894年 岡山北部教会・香登教会、1903年 旭東教会、
1906年 高屋教会。

19) 倉敷教会の第1期に倉敷を担当した伝道者は以下の通りである。
川越義雄伝道師(在任期間 1880年10月～1883年2月)、
亀山昇伝道師(天城講義所と兼務、1884年8月～1886年9月)、
堀兼鶴太郎伝道師(1888年12月～1889年10月)。

1890年代に入ると、教会設立への試みは見られない。これは民族主義の高揚に伴い、反キリスト教的風潮が日本国内に広がった時代状況を反映している。倉敷でキリスト教活動が活発に行われるようになるのは、1900年代に入ってからである。この時期の一連の動きが1906（明治39）年7月1日の倉敷教会設立へと続くのである。

それでは倉敷教会史第1期において、やがて倉敷教会の会員となった人々のキリスト教信仰はどのような性格を帯びていたのか。

まず、歴史的な第1類型を特色づけている近接地伝道に関してである。『倉敷教会畧史』は1880年代における近接地伝道の様子を伝えている。これらの報告は、1880年代に倉敷を担当した伝道師や倉敷在住のキリスト教徒が、近接地伝道への関心を持ち活動していた事実を示している。彼らは、倉敷に教会はまだ設立されていなかったが、組合教会の歴史的な第1類型と同様の信仰生活を送っていたのである。

（1882年1月）更に伝道の手は延びて児島郡天城村高橋常太郎、朽木忠二郎両氏宅、同郡福田村津崎馬太郎氏宅にも毎週訪問せられて居た²⁰。

（1884年2月12日）此日より3日間、当地信徒某（木村和吉氏自身ならん）は天城に出掛けて、高橋常太郎氏宅その他の家庭集会を開き、聖書会読会の司会などに働いた。（家庭及び仮会堂において）²¹

20) 倉敷教会の第1期に倉敷に設置された講義所は以下の通りである。

- 1882年1月 井上町に講義所を開く。
- 1882年4月 本町に移転、12月廃止する。
- 1888年6月 阿知町に講義所を移転する。
- 1889年1月 向市場に講義所を移転する。
- 1889年6月 戎町に講義所を移転する。
- 1905年5月 本町に講義所を開く。

21) 高戸猷（編）、前掲書、4頁。

22) 高戸猷（編）、前掲書、10頁。

(1884年11月19日)天城教会が設立された。設立委員は朽木忠三郎、山脇恒、木村和吉の三氏であった²³⁾。

次いで、倉敷教会に継承された信仰の特色を4点指摘したい。まず、浅野義八が示した純粋なキリスト教信仰である。彼の信仰は深い共感を持って、設立後の倉敷教会に伝えられている。

然るに茲に感謝すべき事は、すでにそれ迄の信仰生活に於いて、霊肉両方面に、耐え切れぬ苦難を嘗め尽して、かすかな菓子店を生活の綱としながら、なほ迫害の中に安息日休業（閉戸厳行）を断行して、祈祷の熱火に燃えつつ、信仰のたどりを続けられて来た浅野義八氏が、少しも動ぜず孤独の嘆に血涙をしまりつつ確信の歩みを続けられた事を思ふと、全く胸つぶる程に感激に堪えぬ事である²⁴⁾。

次に伝統的な倉敷商人の生活に取り入れられたキリスト教、すなわち倉敷教会員に生活の規範を示したキリスト教倫理である。

林源十郎（蘇太郎）が勤儉節約に励んで、自ら少しずつたくわえた貯金を捧げて、倉敷教会の構内に禁酒倉を建てたことはさきに述べた通りである。かれは、日本的ピューリタンであった。そうした勤儉は、一時のおもいつきや、昂揚したかりそめの感情から出たものでなかった。日常生活に臨むかれの姿勢は、きわめて冷徹なものがあつた。それは、合理的であり、厳格なものであつた。それだけに、実際のであり、地についた着実な歩みを持続する意志力を内に宿していた²⁵⁾。

23) 高戸猷（編）、前掲書、13頁。

24) 高戸猷（編）、前掲書、28頁。

25) 竹中正夫、前掲書、85頁。

さらにキリスト教による共同体の形成である。初めそれはキリスト教を介して育てられた少数者の信頼関係であった。1900年代に入ると信頼で結ばれた交流は広がり、教会設立に向けて共通した意志を持つ共同体へと発展する。

明治期の三家（大原・石井・林）の関係についていうなら、キリスト教を媒介にしてきわめて密接な関係にあり、それが単なる文明開化の装いをもった外来宗教への好奇心をもった趣味的な交わりではなく、また表面的なつきあいでもなく、それぞれの人びとの弱さや、みにくさに触れてそれらを強め、清めていく親身な交わりであったことを知るができる。さらにその交わりは、とかく宗教的小グループがおちいりがちな内面的小グループとして社会において閉鎖的にならず、むしろ宗教的な交わりを媒介にして、それぞれの事業や活動を通して社会において積極的に励んでいったことを指摘することができる²⁶⁾。

最後に倉敷における信仰共同体が教会設立を進めていった際に認められる顕著な特質を指摘したい。それは教会設立に対して主体的に責任を負い、自立した行動をとった信徒の群れである。彼らは教会設立のために何度も会議を開き、自分たちで着実な準備を進めている²⁷⁾。また教会設立に先立って「倉敷仮教会設立承認願」を作成し、1906（明治39）年6月21日に岡山教会執事河本乙五郎宛で提出している。願いには25名が署名捺印していた。彼らを受洗した教会別にみると、次の通りである。

天城教会：浅野義八・浅野千代・板谷彌兵・板谷郁郎・板谷常三郎・板谷米・小野壽吉・太田兼・木村和吉・木村隆

岡山教会：板谷節太郎・大橋朝野・高戸猷・林源十郎（蘇太郎）・林清

倉敷：大原孫三郎・高戸八千歳・林浦・林下枝

その他：大橋廣・木村達・木村官太郎・瀬尾宗二郎・田中愛・松崎謙吉²⁸⁾

26) 竹中正夫，前掲書，91頁。

27) 参照，倉敷教会百年史編纂委員会（編），前掲書，16-26頁。

3. 倉敷教会史の「第2期 真摯な伝道と苦難」

(1) 組合教会の歴史的第2類型

組合教会の歴史的な第1類型に概念化された教会は、広範な地域において伝道活動を展開した。しかし、このような教会活動は教会を、多くの場合、成長させることができなかった。そこで、組合教会は歴史的な第2類型へと大きく転換していく。以下の通りである。

第2のタイプ（歴史的な第2類型）における最重要課題は教会として個々の教会の基盤を確立することであった。このことは具体的には教会の自給独立として強く自覚され、教会堂の建設を伴う場合もあった。教会の自給独立という課題はこの時期の教会の担い手の信仰内容やその表現にも端的に現れている。彼らにとって教会の自給独立は信仰上の課題であり、そのために祈りを集中し、協力し、働いた。したがって、そこでは第1の教会タイプの担い手に見られたように、広範な伝道活動が中心的価値を持つことはなかった。また、活躍したのは教会の自給独立のための方策を指示し、それを着実に実行し、そのために幅広く協力できた人たちである。このような働きで力を発揮したのは若い情熱に燃えた伝道者ではなく、経験が豊かで教会を整えることへの知恵と意志を持った牧師であり会員であった。教会活動も自給独立という目的によって規定された。この目的にしたがって単にキリスト教を伝えるのではなく、それを達成するために地域に集中した伝道活動を行った。また、教会の働きに参加しそれを担う人材の育成を重んじた。ところで、教会の自給独立にしても教会堂の建設にしても、それらは直接には経済的な課題であり、会員の理解と協力を必要とした。そこで、これらの課題を達成する過程で、教会堂建設までは無牧師を決意した宇和島教会に端的に見られたように、教会に責任を持つ自覚的な会員が育った²⁹⁾。

28) 参照、倉敷教会百年史編纂委員会（編）、前掲書、19-25頁。

組合教会の歴史的第2類型の時期（1904-1918）は、ほぼ倉敷教会史の「第2期 真摯な伝道と苦難（1906-1921）」と対応する。『倉敷教会百年史』や『倉敷教会畧史』は、牧師の突然の死や無牧などによってこの時期に戸惑いを繰り返す教会の姿を伝えている。ところが、いくつかの教会統計の数値によると第2期の倉敷教会はきわめて着実な歩みをなしている。そこからは、第2期の倉敷教会において基本的には組合教会の歴史的第2類型と重なる様子が推測される。実際にはどうであったのか。検証してみたい。

(2) 歴史的第2類型から見る倉敷教会史第2期

倉敷教会史第2期（1906-1921）を『倉敷教会百年史』や『倉敷教会畧史』はどのように描いたのか。目次で叙述内容を概観したい。なお、『倉敷教会畧史』の時期区分は倉敷教会史第2期と多少ずれている。

『倉敷教会百年史』

第2章 真摯な伝道と苦難

第1節 倉敷教会設立

第2節 逞しき伝道への旅立ち

第3節 教会試練の時代³⁰⁾

『倉敷教会畧史』

二. 教会第一期（自明治39年1月－至明治45年5月）

イ 設立準備期 本町（借宅）講義所期

ロ 溝手牧師時代 本町・東本町・新川仮会堂期

三. 教会第二期（自明治45年5月－至大正5年11月）

第1 無牧期 新川仮会堂期

29) 塩野和夫「日本組合基督教会の歴史的四類型」44-45頁。

30) 参照，倉敷教会百年史編纂委員会（編），前掲書，27-56頁。

四. 教会第三期（自大正5年11月—至大正12年5月）

竹中牧師時代（自大正5年11月—至大正7年8月）	新川仮会堂期
第2次無牧時代（自大正7年8月—至大正7年12月）	同上
杉田牧師時代（自大正7年12月—至大正9年6月）	
	渡米中を加ふ 同上
杉田老牧師応援時代（自大正8年6月—至大正11年3月）	同上
第3次無牧時代（自大正11年4月—至大正12年5月）	同上 ³¹⁾

これらの目次を見ると、倉敷教会史第2期には「教会試練の時代」があり、3度に及ぶ無牧の期間があった。したがって、この時期の教会は長期にわたり安定した歩みを継続できなかったと推測される。ところが、いくつかの統計資料からは倉敷教会史第2期について全く違った側面が浮かび上がってくる。

まず、教会の種別である。1906（明治39）年から1919（大正8）年まで、倉敷教会は独立教会である³²⁾。1920（大正9）年から1921（大正10）年までは教会である。つまり、第2期を通じて一貫して自給教会であった。さらにこの間の教会統計から、その基本的な性格を持つ会員数と教会常費を見ると、全体として安定している³³⁾。なるほど、教会常費で第1無牧期（1912-1916）と重なる時期で低迷している。けれども、この時も教会種別では独立教会を維持している。また、会員数が減少しているわけでもない。これらを総合的に判断すると、倉敷教会は第2期にいくつかの困難と遭遇したが独立教会として安定した運営をしていた。それでは第2期の倉敷教会は具体的にどのように歩んでいたのか。そこから浮かんでくる会員像はどのような姿なのか。第2期を通して中心的課題であり続けた教会堂建設をめぐる倉敷教会の経緯から考えてみたい。

倉敷教会史第2期における教会堂建設の動向を分析するにあたって、まずそ

31) 参照、高戸猷（編）、前掲書、1頁。

32) 組合教会の教会種別は1904年度から1918年度までは、「独立教会」（会員数30名以上、自給）・「仮教会」（会員数20名以上）・「講義所」であった。1919年度から1933年度までは、「教会」（会員数若干名、自給）・「伝道教会」（自給不可の教会）であった。参照、塩野和夫『日本組合基督教会研究序説』307頁。

の経緯を概観しておきたい。

倉敷教会が1906（明治39）年7月1日に教会設立式を行った仮会堂（本町）は借家であった。設立式当日に開いた役員会は、「仮会堂借家料 月額金12円」を決定している³⁴⁾。しかし、倉敷教会はいつまでも借家を会堂とすべきではないと考えた。設立から半年後の役員会（1908年1月23日開催）で、「7. 会堂建築基金積立方法（総会の議事に上程する事）」を決議し、教会堂建設に向けた計画を立て始めている³⁵⁾。会堂建築基金積立は順調に進み、1908（明治41）年7月には「教会堂建築基本金 277円17銭5厘」が報告されている³⁶⁾。1909（明治42）年5月に木村和吉宅で開かれた役員会では、「1. 会堂建築に向かって大いに努力する事」が決議された³⁷⁾。建築基本金は着実に献金され、1911（明治44）年5月には「会堂建築基金会計 1,893,400」と報告されている³⁸⁾。

33) 第2期における会員数と教会常費の推移は次の通りである。

	会員数	教会常費（単位 円）
1906	36	330.00
1907	52	660.00
1908	92	684.00
1909	112	953.78
1910	116	922.36
1911	114	867.65
1912	126	487.79
1913	133	284.40
1914	137	277.79
1915	139	305.68
1916	153	391.00
1917	188	855.00
1918	192	693.00
1919	196	757.00
1920	201	871.00
1921	226	992.00

34) 参照、倉敷教会百年史編纂委員会（編）、前掲書、27頁。高戸猷（編）、前掲書、42頁。
なお、本町の仮会堂は1908年2月に東本町に移転している。

参照、倉敷教会百年史編纂委員会、前掲書、34頁。高戸猷（編）、前掲書、62頁。

35) 参照、倉敷教会百年史編纂委員会（編）、前掲書、31頁。高戸猷（編）、前掲書、51頁。

36) 参照、倉敷教会百年史編纂委員会（編）、前掲書、35頁。高戸猷（編）、前掲書、64頁。

37) 参照、倉敷教会百年史編纂委員会（編）、前掲書、38頁。高戸猷（編）、前掲書、70頁。



記念碑 倉敷教会旧会堂・竹中幼稚園開園の地
『倉敷教会百年史』口絵より

1911年7月以降、教会堂建設は急速に進む。同年7月1日に開催した教会総会で「1. 仮会堂建築委員の選定（すなわち当時の監理者2名と執事6名）木村和吉・林源十郎（蘇太郎）・浅野義八・小野壽吉・木村官太郎・高戸猷・木村隆・太田兼」を決議している³⁹⁾。その後、「仮会堂建築起行祈祷会」を7月12日に行い、9月29日には「落成感謝祈祷会」を実施している。「仮会堂捧堂式」は10月1日に執行している。なお、仮会堂の「建築総費額」は「1,024円45銭」であった⁴⁰⁾。なお、建設された会堂は「倉敷教会仮会堂」とされた。その理由について『倉敷教会百年史』は以下のように説明している。

経費節減のため、敷地は借地、建築部材も旧郡役所会議室と玄関、合計25坪5分の部材をかねて買い受り、取り置いて建築に再利用した。新会堂でありながら「仮会堂」と称したゆえんである⁴¹⁾。

38) 参照、高戸猷（編）、前掲書、82頁。

39) 倉敷教会百年史編纂委員会（編）、前掲書、40頁。高戸猷（編）、前掲書、83頁。

40) 参照、倉敷教会百年史編纂委員会（編）、前掲書、40頁。高戸猷（編）、前掲書、83-84頁。

仮会堂を建設した6年後の1917（大正6）4月1日の臨時教会総会は、本会堂新築問題で開催された。総会では倉敷基督教会執事より、「倉敷基督教会本会堂新築に就いて謹告」「予算書」「献金方法」が提案された。予算書によると、「会堂建築費仮予算額 金5千円也」である⁴²⁾。この予算額は仮会堂建築費の約5倍の規模である。ところが、新たに申し込みを募った結果が、同年7月1日に開催された総会で報告されている。それによると新申し込みを含めた総計は約6,000円であった⁴³⁾。臨時総会で再度「新会堂建築の件」が諮られたのは、1921（大正10）年7月9日である。この総会ではボーリズ氏との交渉が進められており、それによると「全体では5万円以上になるかも知れぬ」と報告され、新たな建築積立金の必要を決議している⁴⁴⁾。前回予算のおよそ10倍にもなる新たな計画について再度献金を募った結果として、9月12日に「合計 28,800円」が報告されている⁴⁵⁾。そこで、同年12月17日に会堂敷地（面積530坪、金額17,775円）を購入している⁴⁶⁾。土地を取得して、教会堂建設は新たな局面を迎えた。

第2期を通じて、教会堂建設に向けた地道だがたゆまぬ前進があった。その経緯からいくつかの特色を見ることができる。

まず、借家の会堂から仮会堂、本会堂建設に向けた一貫した歩みである。その間、教師は初代の溝手文太郎牧師（在任1906年7月～1912年4月）、2代目

41) 倉敷教会百年史編纂委員会（編）、前掲書、41頁。なお、『倉敷教会畧史』は「仮会堂建築始末」を記している。参照、高戸猷（編）、前掲書、84-85頁。

42) 倉敷教会百年史編纂委員会（編）、前掲書、48頁。高戸猷（編）、前掲書、108-109頁。

43) 「新申込額 3,300円 旧基本積立 2,010円 現会堂売却予想 700円 計約 6,000円」高戸猷（編）、前掲書、110頁。

ただし、この時の建築計画は竹中悦蔵牧師の突然の逝去により頓挫する。参照、倉敷教会百年史編纂委員会（編）、前掲書、49頁。高戸猷（編）、前掲書、112頁。

44) 倉敷教会百年史編纂委員会（編）、前掲書、54頁。高戸猷（編）、前掲書、123頁。

45) 「積立金額 7,341円余り 倉紡社債権額面 5,600円 新献金申込者 25名 15,945円 合計 28,800円」

倉敷教会百年史編纂委員会（編）、前掲書、54頁。高戸猷（編）、前掲書、124頁。

46) 参照、倉敷教会百周年編纂委員会（編）、前掲書、55頁。高戸猷（編）、前掲書、125頁。

の竹中悦蔵牧師（1916年11月～1918年8月）、3代目の杉田讓二伝道師（1918年12月～1920年6月）、杉田潮長期応援牧師（1919年6月～1922年3月）と変わっている。しかし、教師の交代にもかかわらず、倉敷教会は着実に本会堂の建設に向けて前進している。そこに、教会を支え続けた信徒の存在があった。

ところで、本会堂建設に向けた一連の歩みにおいて教会員の中で指導力を発揮した人々がいた。中でも木村和吉の指導的役割は傑出している。第2期における本会堂建設の経緯をみると、仮会堂建築・本会堂建設計画・予算案変更に伴う本会堂建設計画・敷地の購入など、いくつかの重要な局面があった。これらいずれの時においても、木村和吉は中心になって責任を負っている。

しかし、会堂建設という大事業は一人の指導者によって達成できるものではない。木村には協力者がいた。1911（明治44）年7月1日に仮会堂の建築員に選ばれた8名について彼らの生年と当時の年齢をみると、次の通りである。なお、8名は全員が倉敷教会設立時の署名者25名に入っている。

木村和吉	1862年	49歳、	林源十郎（蘇太郎）	1865年	46歳、
浅野義八	1858年	53歳、	小野壽吉	1853年	58歳、
木村官太郎	1876年	35歳、	高戸猷	1881年	30歳、
木村隆	不明、		太田兼	1861年	50歳、

年齢をみると彼らは若い情熱に燃える青年ではない。むしろ、社会生活においても教会生活においても多くの経験を積み、教会建設という大事業に対して責任を持って計画を立て、確かな歩みを続けることができる成熟した人々であった。彼らが持続して結束した取り組みをすることによって、本会堂建設という大事業の計画は可能になった。

さらに、本会堂建設のために必要な条件があった。それは倉敷教会員の協力であり、しかも会堂建設という長期に及ぶ事業期間における一致結束である。そのためには計画の中心にたち責任を負う人々が、会員の信頼を得るために細心の注意を払いしかも大胆に事を進めなければならない。第2期に本会堂建設

のために責任を負った人々の信仰生活には、組合教会の歴史的第2類型として描き出されているキリスト教徒像と多くの面で重なってくるのである。

4. 倉敷教会史の「第3期 近代教会の基礎固め」

(1) 組合教会の歴史的第3類型

組合教会の歴史的第2類型に概念化される教会は、教会の自給独立を主要な課題とした。教会員はこの目的のために祈り力を合わせ、教会を担う人材を育てた。自給独立を達成する過程で、多くの教会は教会堂を建設する。こうして安定した教会運営を確保した時、地域社会における新たな立場を獲得していた。そこで、地域社会に開かれた共同体として教会は新しい歩みを始める。組合教会の歴史的第3類型である。

第3のタイプの教会（組合教会の歴史的第3類型）は、すでにその基盤が整っていたことと地域社会の一定の信頼を得ていたことを前提にして、キリスト教の立場から地域社会に向けて幅広く発言し行動する。このような基本的特質は教会活動に顕著に認められる。すなわち、このタイプの教会では、第1のタイプのように広範な伝道活動を展開することや第2のタイプのように集中した伝道活動と教会青年育成を限定的に目的にした活動が基本的特質になることはない。むしろ、キリスト教の立場から教会を地域社会に向けた教育・文化・社会福祉等に関する情報発信と活動の場とした。したがって、このタイプの教会の担い手は幅広い学識と行動力を必要とした。彼らはその学識と行動への意欲とをキリスト教主義学校で得たし、組合教会はそれらのネット・ワークでもあった。さまざまな社会的・文化的情報や活動を提供する教会に地域の人びとは多く集まった。教会は以前とは質の違った地域社会との接点を多く持った。しかし、このような活動や地域との接点が直ちに教会の会員数や活動費の増加につながることはなかった。むしろ、このタイプの教会において会員の空洞化などが徐々に進行した⁴⁷⁾。

組合教会の歴史的第3類型（1919-1935）は、倉敷教会史の「第3期 近代教会の基礎固め（1922-1925）」と活動内容において重なる点がある。倉敷教会は本会堂を設立すると、地域社会に開かれた教会として多彩な活動を展開したからである。そこで、第3期に始まる地域社会に開かれた教会活動を組合教会の歴史的第3類型から分析する。

(2) 歴史的第3類型から見る倉敷教会史第3期

倉敷教会の建築委員会が西村伊作の西村建築事務所と会堂建築について「32,000円の範囲で工事の全て」を契約したのは、1922（大正11）年5月26日である⁴⁸⁾。同年7月には着工し現場で8月20日に定礎式を執行、献堂式を挙行了したのは1923（大正12）年5月20日である⁴⁹⁾。「会堂建築決算報告」によると、「新会堂敷地530坪代」を含めた総計は「65,608円90銭5厘」であった⁵⁰⁾。田崎健作伝道師が倉敷教会に着任したのは、この献堂式の日である。念願の新会堂を竣工し田崎伝道師を迎えた頃から、倉敷教会は地域社会を対象にした活動に次々と取り組んでいく。活動内容と担い手を中心に見ておきたい。

まず、竹中幼稚園である。竹中光子は倉敷教会第2代牧師竹中悦蔵の妻であった。竹中牧師が1918（大正7）年に逝去すると、しばらくの祈りの時を経て、彼女は1921（大正10）年春に玉成保母養成所に入学した。翌1922（大正11）年3月に同校を卒業すると、直ちに倉敷における幼稚園開設の準備にかかる。こうして、倉敷教会付属の「旭幼稚園」を開設したのが、1922（大正11）年9月1日である。場所は倉敷教会仮会堂であった⁵¹⁾。旭幼稚園は1923（大正12）年3月には新会堂に移転、1924（大正13）年10月に「竹中幼稚園」と改称

47) 塩野和夫「日本組合基督教会の歴史的四類型」47頁。

48) 参照、倉敷教会百年史編纂委員会（編）、前掲書、57頁。高戸猷（編）、前掲書、125頁。

49) 参照、倉敷教会百年史編纂委員会（編）、前掲書、61頁。高戸猷（編）、前掲書、135-136頁。

50) 参照、倉敷教会百年史編纂委員会（編）、前掲書、62頁。高戸猷（編）、前掲書、138-139頁。

51) 参照、倉敷教会百年史編纂委員会（編）、前掲書、326頁。竹中正夫、前掲書、244-245頁。



1930年頃の倉敷教会



倉敷教会の会堂内部

している。倉敷教会の付属幼稚園として竹中幼稚園は一貫してキリスト教保育を行い⁵²⁾、地域社会に根付いた活動を展開している⁵³⁾。

この頃から取り組み始めた運動に、自然災害に遭った人々への救援活動があ

52) 参照、竹中正夫「変わらないもの」(竹中正夫, 前掲書, 247-248 頁)

53) 参照、竹中正夫「こころのよりどころ」(竹中正夫, 前掲書, 248-253 頁)

る。日本基督教青年同盟から1922（大正11）年9月に、ロシアの飢饉救済の呼びかけがあった。これを受けて倉敷教会青年会は、9月19日から3日間「ロシア同胞を救へ」を合言葉にして戸別訪問などの活動をした。こうして集まった義捐金104円を青年同盟に送金している⁵⁴⁾。1923（大正12）年9月1日におこった関東大震災に際しては、婦人会と青年会が協力して9月4日から6日まで救援活動を実施し、現金911円50銭等を送っている。この時は救援活動を継続し、その後177円90銭を集めて送金している⁵⁵⁾。

倉敷教会を会場にして取り組んだ活動に、婦人会が1923（大正12）年9月28日に設置した矯風会倉敷支部がある⁵⁶⁾。同年10月2日には、田崎伝道師と松本圭一を講師として英語研究会を設けている。10月8日には、田崎伝道師夫人と松原高を講師に裁縫教授を始めた⁵⁷⁾。11月3日には青年会が主催して活動写真会（映画会）を開き、会堂に500名を越える参加者があったと報告されている。収益金100円は大震災の火災救援のため送金された⁵⁸⁾。さらに、11月24日には東京の霊南坂教会音楽主任の大中寅二を招き、6日間連続して夜に演奏会を開催し、町の婦人会・処女会・さつき会・矯風会・文化協会・中央病院関係者を招待している。それとは別に午後の演奏会を企画して、高等女学校生徒や旭幼稚園母の会を招いている⁵⁹⁾。1924（大正13）年5月31日には、婦人会主催の大バザーを教会で開いている。これが倉敷教会に記録されている最初のバザーである⁶⁰⁾。

倉敷教会外にも出かけ、積極的に地域活動に参加している。田崎牧師は、1924（大正13）年4月7日に浅口郡南浦青年団有志主催の精神講話に講師とし

54) 参照、倉敷教会百年史編纂委員会（編）、前掲書、58頁。高戸猷（編）、前掲書、127頁。

55) 参照、倉敷教会百年史編纂委員会（編）、前掲書、63頁。高戸猷（編）、前掲書、140頁。

56) 参照、倉敷教会百年史編纂委員会（編）、前掲書、63頁。高戸猷（編）、前掲書、141頁。

57) 参照、倉敷教会百年史編纂委員会（編）、前掲書、63頁。高戸猷（編）、前掲書、141頁。

なお、1924（大正13）年7月1日に開催された教会総会で英語研究会は英語夜学校として青年会に、裁縫教授は裁縫夜学校として婦人会に委託している。

参照、倉敷教会百年史編纂委員会（編）、前掲書、65頁。

58) 参照、倉敷教会百年史編纂委員会（編）、前掲書、63頁。高戸猷（編）、前掲書、141頁。

59) 参照、倉敷教会百年史編纂委員会（編）、前掲書、63頁。高戸猷（編）、前掲書、141頁。

60) 参照、倉敷教会百年史編纂委員会（編）、前掲書、65頁。高戸猷（編）、前掲書、144頁。

て招かれ、午後と夜に講話をした。その後も、度々当地に出向いている⁶¹⁾。同年6月3日には吉備郡真金小学校で5年生以上の生徒170名に禁酒講演を、6日には同校で青年団・在郷軍人・一般の人びと約200名に精神講話を行っている⁶²⁾。

このように倉敷教会は教会堂設立前後から、地域社会に開かれた諸活動を積極的に展開した。そこに認められる教会活動の特色は、まさに組合教会の歴史的第3類型と重なる。ところで、この時期の組合教会に広く見られたのが教会の空洞化である。地域社会での活動を幅広く行うことによって、地域の多くの人々が教会へ足を運んだ。しかし、これらの活動が直ちに教会の統計数値に表れることはなかった。そのため、歴史的第3類型に対応する時期（1919-1935）の組合教会には空洞化が生じていた。倉敷教会の場合はどうであったのか。教会統計の主要な数値、現住会員数・礼拝出席者数・教会常費から、検討したい⁶³⁾。倉敷教会の1919年度から1935年までの統計数値（現住会員数・礼拝出席者数・教会常費）は、以下の通りである。

1919年度（106名・18名・757円）
1920年度（93名・22名・871円）
1921年度（112名・24名・992円）
1922年度（137名・25名・1,038円）
1923年度（198名・56名・3,053円）
1924年度（238名・76名・3,417円）
1925年度（241名・80名・4,010円）
1926年度（252名・77名・3,950円）
1927年度（257名・77名・3,819円）

61) 参照、倉敷教会百年史編纂委員会(編)、前掲書、64頁。高戸猷(編)、前掲書、143頁。

62) 参照、倉敷教会百年史編纂委員会(編)、前掲書、65頁。高戸猷(編)、前掲書、144頁。

63) 倉敷教会の第3期は1922年から1925年である。この期間は統計数値の推移を検討するためには短すぎる。そこで、ここでは組合教会の第3期（1919-1935）における倉敷教会の数値を検討対象とする。

1928年度 (245名・86名・2,767円)
1929年度 (220名・89名・2,763円)
1930年度 (432名・98名・3,080円)
1931年度 (302名・84名・4,401円)
1932年度 (340名・77名・3,539円)
1933年度 (355名・73名・3,829円)
1934年度 (336名・71名・3,589円)
1935年度 (340名・63名・3,197円)

倉敷教会の1919年度から1935年度までの統計数値（現住会員数・礼拝出席者数・教会常費）は、どのように分析できるのでしょうか。これを分析するために便宜的に1919年度から5年ごとの統計数値を並べ比較してみると、以下の通りである。

1919年度 (106名・18名・757円)
1924年度 (238名・76名・3,417円)
1929年度 (220名・89名・2,763円)
1934年度 (336名・71名・3,589円)

倉敷教会の会員数・礼拝出席者数・教会常費の推移、あるいは現住会員に対する礼拝出席者数の割合、さらに現住会員数に対する教会常費の割合など、いずれの値をとっても教会の空洞化は認められない。したがって、一方では倉敷教会史の第3期において倉敷教会は歴史的な第3類型にみられる地域社会における活動を活発に行っていた。しかし他方、組合教会史の第3期に広く認められた教会の空洞化は倉敷教会には生じていなかったのである。

5. 倉敷教会史の「第4期 戦時下の教会」

(1) 組合教会の歴史的第4類型

組合教会の歴史的第4類型に概念化される教会は、戦時体制下にあつて教会の存続を何よりの課題とした。教師の頻繁な交代・会員の離散・空襲による会堂の消失等の中で、少数の教会員が集会を守り続けた。こうして、戦時体制下にあつて教会は維持された。このような状況下に認められるのが、組合教会の歴史的第4類型である。

第4のタイプの教会（歴史的第4類型）にとって教会の存続が最大の課題であつた。具体的には国家の戦時体制に組み込まれながら教会も戦争遂行に協力して、その存続を計った。このような姿勢はこの時期の教会活動から顕著に読みとれる。この時期に教会が守ろうとしたのは、礼拝・祈祷会等、教会の定例集会の継続であつた。教会外への働きかけは困難であり、新来会者もなく、第1の教会類型・第2の教会類型・第3の教会類型でそれぞれに認められた教会外への活動を行うことはほとんどなかつた。むしろ、少数の牧師と教会員が、戦時体制・経済的困難・牧師の交代と無牧の期間・会員の離散・会堂の焼失等の悪条件の中で、集会を続けた。教会を支えぬいたのは集会の参加者であつた。この人たちの関心はキリスト教に向いてゐた。それは地域社会から切り離されたキリスト教であり、どのような意味においても積極的に教会外に働きかけることをしないキリスト教であつた。そこで、彼らが求めたのは困難な状況にあつても信仰者である彼らの実存と教会の存続とを支え続ける力を持つキリスト教であつた⁶⁴⁾。

倉敷教会史の第4期（1926-1945）は、歴史的第4類型と対応する組合教会史（1936-1941, 1941-1943）より長くなつてゐる。満州事変から始まる15年戦

64) 塩野和夫, 前掲書, 49頁。

争期を対象としたためである。そこで、戦時体制下の組合教会を概念化した歴史的第4類型から、倉敷教会史の第4期を分析したい。

(2) 歴史的第4類型から見る倉敷教会史第4期

倉敷教会史の「第4期 戦時下の教会(1926-1945)」には、戦時体制への協力を求める国家の要請に応えた倉敷教会という基本的枠組みがある。そこでまずいくつかの側面から、その概要を見ておきたい。

大正天皇から昭和天皇への代替わりに際し、1926(昭和1)年から1930(昭和5)年にかけてそれを意識した行事や表現がある。これらは教会の主体性に基づいていたが、やがて国家は天皇制を用いて強く戦争協力を求めてきた。

1925年12月25日 大正天皇が死去したためクリスマス祝会を差し控えた⁶⁵⁾。

1928年11月11日 御大典記念礼拝を守った⁶⁶⁾。

1930年7月 倉敷組合教会の附属基督教青年会ではかねて御大典記念事業として青年会館の建設を決議し、資金1万円を募集中であったが、いよいよ準備なりしを以て、会堂前に建坪58坪のモダンな木造洋館を建築に決定し、既に工事に着手した。今年10月までには竣工の予定である⁶⁷⁾。

(『基督教世界』第2426号、1930年7月31日)

戦局が緊迫すると国家の要請は戦争遂行のため具体的な要求となり、教会活動に支障を来すこととなる。金属品の献納や教会建物の徴用の場合を見ておく。

1940年11月頃 金属品献納運動。全国の寺院、教会ならびに青年団の協力による運動であって、当教会もこれに参加することになったため、青年会員の手を借りて退蔵金属の蒐集にあたった⁶⁸⁾。

65) 倉敷教会百年史編纂委員会(編)、前掲書、72頁。

66) 倉敷教会百年史編纂委員会(編)、前掲書、74頁。

67) 倉敷教会百年史編纂委員会(編)、前掲書、79頁。

1943年6月20日 青年会館が徴用された。地方の警備司令部として、軍隊などが駐屯するため⁶⁹⁾。

1944年2月 軍用機のための献金の要請があり、会員に通達した⁷⁰⁾。

1945年4月 礼拝堂に三菱重工業の用度課が移転してきた。これは、水島への爆撃が激しくなり、危険にさらされたので、三菱重工業に徴用されていた大橋公夫が林源十郎（彪）に相談した結果である。これは敗戦後、9月7日に撤収するまで続いた⁷¹⁾。

戦時体制への協力は、教会活動にもさまざまな影響を及ぼした。礼拝プログラムにおける国民儀礼・祈祷会での祈祷内容・礼拝説教の変化、そして初期には見られた反戦思想を見る。

日本基督教団 倉敷基督教会 昭和18年5月2日 礼拝式順序

司会者 桑内成郎

国民儀礼

宮城遙拝

皇軍将士並英霊ニ感謝

礼拝式 (以下、省略)⁷²⁾

1944年7月2日（日）倉敷教会設立・天城教会合併記念総員礼拝を以下の通り挙行した。

国民儀礼 大東亜戦争必勝祈願

礼拝 (以下、省略)⁷³⁾

68) 倉敷教会百年史編纂委員会（編）、前掲書、102頁。

69) 倉敷教会百年史編纂委員会（編）、前掲書、108頁。

70) 倉敷教会百年史編纂委員会（編）、前掲書、111頁。

71) 倉敷教会百年史編纂委員会（編）、前掲書、115頁。

72) 竹中正夫、前掲書、440頁。

73) 倉敷教会百年史編纂委員会（編）、前掲書、112頁。

1938年7月7日 午後8時から定例祈祷会を事変一周年記念祈祷会として開き、以下の主題のために祈った。

- ・ 国難の打開と世界平和確立のため、出征兵士とその家族のため。
- ・ 戦没将兵の英霊とその遺族のため。
- ・ 国民精神の興隆と緊張持久のため。
- ・ 北京、天津、青島、上海に活動せる同胞教会牧師とその会員のため⁷⁴⁾。

1940年9月1日（日） 早朝祈祷会、礼拝にて二瓶要蔵兄が奉仕した。皇紀2600年に際し、時局の進展により、国家総動員の体制が強化され、当教会においても、礼拝に際し、国民儀礼として宮城遙拝、皇軍将兵ならびに英霊に感謝の黙祷を捧げることになり、22日の礼拝よりこれを実行した。⁷⁵⁾

昭和14年3月10日から13日まで4日間にわたって倉敷教会は、天満教会平岡徳次郎牧師を迎えて「春季特別伝道」を催している。その演題を見ると、10日「滅私奉公と十字架精神」、11日「聖忍持久と不退転の信」、12日「教会総力戦と我等の任務」（朝礼拝）、「建設精神と邁進の一路」（夕拝）、13日「山上の垂訓」となっており戦時色の強いテーマが並んでいる。⁷⁶⁾

翌々年、昭和8年田崎牧師は組合教会の派遣によって台湾伝道を行った。このとき、先年旅順の古戦場を訪問したときのことを想起し、島木赤彦の歌を再びとなえ、こうのべている。「人は時々迷う。銃剣の力、軍艦の威力が人格の力よりも偉大なものであると。今日の戦いは戦闘でなくて戦争であることを知らねばならぬ。独逸は戦闘に勝って戦争に敗れた。露国もザーもあの偉大なる陸軍を擁しながら遂に革命に倒れた。つつしむ可きは武力を過信して人心の無能を軽蔑してはならない。」⁷⁷⁾

74) 倉敷教会百年史編纂委員会（編）、前掲書、96頁。

75) 倉敷教会百年史編纂委員会（編）、前掲書、101頁。

76) 竹中正夫、前掲書、434頁。

77) 竹中正夫、前掲書、404頁。

1937年8月2日 岡山憲兵隊より憲兵が来て、組合教会総会の意味を問い、「なぜ、岡山で行うのか、このような催しは時局柄中止せよ」と迫ったが、「全国的な会合であり、今さら中止するわけにはいかぬ」と拒絶した。同時に特高刑事もしばしば来て教会の内情を調査し、「米国より補助を受けているか」などの愚問を發した。その後、相当執拗に来訪するようになった⁷⁸⁾。

戦時体制下にあつて倉敷教会会員はどのような教会生活を送っていたのであろうか。教会統計（現注册会员数・礼拝出席者数・教会常費）の1919年度から1935年度までの推移についてはすでに見ている。その後、1936年度から1939年度までの推移は次の通りである。

1936年度（342名・65名・3,766円）

1937年度（356名・62名・3,552円）

1939年度（355名・52名・3,013円）

倉敷教会会員は1939年度まで、教会統計の数値で見ると、比較的安定した教会生活を送っていたと推測できる。しかし、戦局がさらに厳しくなると男性会員が次々と召集され、岡山県下の各地が次々と空襲されるようになると、状況は一変した。

翌昭和20年3月17日東方牧師に召集令が来て、岡山48部隊に入隊することになり、教会は戦時下2度目の無牧を経験する。男子はほとんど徴兵、徴用のために引っ張り出され、婦人たちは疎開や職場の責任をもって不在となることが多かったが、礼拝は欠かさず守られていた。それを守ったのは、竹中みつ園長を中心とするごく少数の婦人たちや老人たちであった。水島にあった三菱重工業は爆撃を恐れ4月25日、その事務所を倉敷教会礼拝堂に移した。終戦後9月

78) 倉敷教会百年史編纂委員会（編）、前掲書、93頁。参照、竹中正夫、前掲書、387-388頁。

7日に撤去されるまで用いられていた。教会の庭には、米兵を仮想したわら人形がおかれ、剣付銃砲で兵隊たちがそれをかん声あげてついていた。竹中園長は幼稚園の子どもたちに、「いまはこうして戦争をしていますが、アメリカの人にもよくわかった人もいます。いつの日か、平和が来るように祈りましょう」と語っていた⁷⁹⁾。

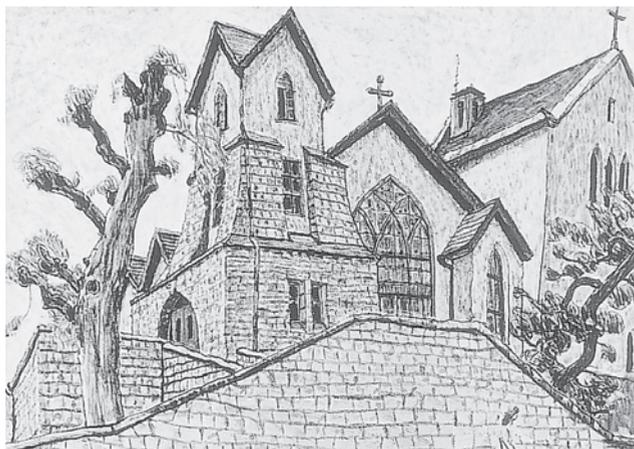
倉敷教会は、戦時体制下にあつてなお比較的安定した教会生活を送っていた。しかし、太平洋戦争も末期になると、様相は一変した。この時に教会を守りぬいたごく少数の教会員の信仰生活は、歴史的4類型に類型化された姿と重なるのである。

おわりに

『倉敷教会百年史』は倉敷教会の前史と組合教会に所属していた時期を4期に区分していた。すなわち、「第1期 プロテスタントの教え倉敷へ(1878-1905)」「第2期 真摯な伝道と苦難(1906-1921)」「第3期 近代教会の基礎固め(1922-1925)」「第4期 戦時下の教会(1926-1945)」である。これらを組合教会の歴史的4類型の概念と比較検討し、考察した。その結果、倉敷教会の歴史的基層に存在するいくつかの顕著な特質が明らかになった。

まず、倉敷教会の信仰の質に関する3点である。これらはいずれも倉敷教会史の「第1期」に認められ、歴史において尊重されている。第1は浅野義八が生きた信仰である。浅野は祈りの人であり、キリスト教信仰に基づく霊性を豊かに生きた。第2は林源十郎(蘇太郎)が自らの生活を以て示した、日本的ピューリタニズムともいふべき倫理的生活である。彼は社会においてこのような倫理的生活をして、教会を支えた。第3は林・石井・大原3家に認められるキリスト教による交わりである。キリスト教による交わりは倉敷教会において教会共同体の形成力となった。

79) 竹中正夫, 前掲書, 446-447頁。参照, 倉敷教会百周年編纂委員会(編), 前掲書, 115-117頁。



日本キリスト教団 倉敷教会（スケッチ）

次に倉敷教会会員の自立と主体性、そして協力し合う姿勢である。この特色がよく現れているのは、「第2期」における教会堂建設への取り組みである。あの時重なった教師の交代にも関わらず、会堂建設という大事業は地道に着実に取り組まれた。そこには中心になって会堂建設を指導する信徒がいて、委員として彼を支えた信徒もいた。さらに彼らを信頼して会堂建設に力を合わせ協力する教会員がいた。そこに認められるのは、会員の自立と主体性、そして彼らの協力し合う姿である。

さらに、地域に開かれた教会の姿勢がある。この姿は「第3期」に取り組んださまざまな活動に見られるが、とりわけ竹中幼稚園の存在に顕著である。教会付属施設として竹中幼稚園はキリスト教保育に徹しながらも、地域に開かれた活動を展開して地域社会の信頼を得た。

これらの特色は倉敷教会の歴史的基層研究を通して明らかにされた。しかし、作業そのものは教会外部の研究者が歴史研究の手法を用いて分析した結果という性格を持つ。これら歴史的基層に潜む賜物をどのように継承発展させるのか、それは現在の倉敷教会が明日に向けて主体的にまた実存的に取り組まれる課題である。『倉敷教会百年史』編纂委員会の助言者として十分な役割を果たせなかった者としては、これからの倉敷教会に祈りつつ期待するのである。

資 料

資料1 倉敷教会と日本組合基督教会の比較年表

1869		11 アメリカンボード宣教師 D. C. グリーンが来日する。
1870		
1871		
1872		5 J. C. ベリーが来日する。
1873		
1874		4 摂津第一基督公会（神戸教会）が設立される。
		11 新島襄が帰国する。
1875		10 神戸ホーム（神戸女学院）が開校する。
		11 同志社英学校（同志社）が開校する。
1876		1 熊本洋学校生徒有志が花岡山で奉教趣意書を公表する。
1877		
1878		
1879		1 日本基督伝道会社を設立する。
1880	2 中川横太郎が新島襄を倉敷に案内する。	
	10 川越義雄伝道師、倉敷に定住する。木村和吉宅で説教会を開く。	10 岡山教会が設立される。
1881		
1882	1 井上町に聖書講義所を開設する。川越宅で新約聖書を講義する。	
	4 本町に講義所を移転する。	
	12 講義所を廃止する。	
1883	2 川越氏、辞任する。	8 『東京毎週新報』を創刊する。
1884	8 亀山昇伝道師、天城講義所に住み、倉敷でも伝道する。	11 天城教会が設立される。
1885		1 『東京毎週新報』を『基督教新聞』と改題する。
1886	3 亀山伝道師、倉敷に定住する。	4 日本組合基督教会を組織する。
	5 戌町に講義所を設ける。	
	9 亀山伝道師が辞任する。	
1887	11 木村和吉宅で聖書研究会を行う。	9 岡山孤児院を開設する。
1888	6 阿知町に講義所を移転する。	
	12 堀兼鶴太郎伝道者、倉敷で伝道する。	
	12 木村和吉宅で倉敷最初のクリスマス祝会をもつ。	
1889	1 講義所を向市場に移転する。	
	6 講義所を戌町に移転する。	
	10 堀兼伝道者が辞任する。	
1890		
1891		

資料1 つ づ き

1892		
1893	不定期に小集会を開く。	
1894	1～7 伝道義会へ寄附をする。	
1895		4 組合教会がアメリカンボードの指定寄付金を謝絶する。
1896		10 組合教会教師会が「奈良大会宣言」を公表する。
1897		
1898		2 同志社社員会が『同志社通則』の一部を削除する。
1899	7 岡山孤児院慈善音楽会を倉敷で開催する。	
1900	12 クリスマス祝会を開く。	1 『基督教新聞』を『基督教世界』と改題する。
1901	3 大挙伝道で講演会を開く。	
1902	6 最初の聖餐式を木村和吉宅で行う。 7 倉敷紡績で伝道を開始する。 12 第1回倉敷日曜講演を行う。	
1903	12 林源十郎宅でクリスマス祝会を開く。	1 『東京毎週新誌』を『基督教世界』と改題する。
1904	1 倉敷伝道会を設立する。 5 日曜学校を始める。 7 倉敷で最初の洗礼式を執行する。	
1905	5 本町に講義所を設ける。	10 日本組合教会が総会で『日本組合教会及アメリカンボード宣教師の合同会議において全員一致を以て採用したる提案』を承認する。集中伝道に着手する。
1906	5 教会設立相談会を開く。 7 倉敷教会設立式を挙げる。 本町の講義所を仮会堂とする。 溝手文太郎牧師が就任する。	
1907	1 婦人会を組織する。 早鳥伝道を協議する。 倉敷紡績工女伝道を継続する。	
1908	2 東本町に仮会堂を移転する。 11 集中伝道を行う。 11 共励会の発会式を行う。 11 教会週報の第1号を発行する。 12 東方雛女性伝道師が就任する。	
1909		
1910	1 倉敷基督教青年会の発会式を開く。	10 組合教会の信徒大会が朝鮮人伝道に関する「決議案」を採択する。
1911	9 仮会堂が落成する（新川）。 9 日曜学校沖分校の開校式を行う。 10 新川仮会堂の就堂式を挙げる。	6 朝鮮人伝道に着手する。
1912	5 溝手牧師、辞任する。	

資料1 つ づ き

1914	2 東北飢饉救済のため青年会が活動する。	
	5 昭憲皇太后御大葬敬弔式を行う。	
1915	7 日曜学校同窓会，少年大会を開く。	
	11 大正天皇即位奉祝式を行う。	
1916	5 信仰覚醒運動を行う。	
	11 竹中悦蔵牧師が就任する。	
1917	4 日曜学校浜分校を開校する。	
1918	8 竹中牧師，死去する。	
	12 杉田譲二伝道師が就任する。	
1919	2 日曜学校笹沖分校を開校する。	
	5 王女会を組織する。	
1920	6 杉田伝道師，死去する。	
	10 禁酒大演説会を開く。	
1921	1 日曜学校坂津分校を開校する。	
1922	5 会堂建築を西村伊作氏に委嘱する。	
	9 教会付属幼稚園を開園する。	
	9 ロシア飢饉救済のため青年会が活動する。	
1923	5 新会堂の献堂式を挙行する。	
	5 田崎健作伝道師が就任する。	
	9 関東大震災の救援活動を行う。	
	9 矯風会倉敷支部を設立する。	
	10 夜間英語研究会，夜学裁縫教授を始める。	
	11 日曜学校中島分校を開校する。	
1924	5 婦人矯風会主催の大バザーを開く。	9 小崎弘道『日本組合基督教会史』を刊行する。
1925	5 丹波地方大震災の慰問視察を行う。	
1926	1 朝鮮人在倉敷招待会を開く。	
	1 御崎講義所を開設する。	
	7 握飯親睦会を開く。	
	12 大正天皇御大葬敬弔式を行う。	
1927		
1928	7 木村清松大講演会を開く。	
	11 御大典記念路傍大伝道会を行う。	
	12 青年会が大音楽会を開く。	
1929	4 土曜学校を船倉で開校する。	
	6 「音楽の夕」を開く。	
1930	3 「神の国運動」講演会を開く。	
	10 青年会館落成感謝会を開く。	
1931		
1932	9 日米間問題講演会を開く	
1933	7 初めての学生キャンプを開く。	
	12 クリスマスカンタータを開催する。	

資料1 つ づ き

1934	4 函館大火慰問の救済品を送る。	
	10 東北飢饉救済のためバザーを開く。	
1935		
1936		
1937	11 田崎牧師が就任する。	10 「支那事変に関する声明」「時局に処する申合」を発表する。
	12 西田進牧師が就任する。	
	12 出征兵士家族の子どもを迎えて、クリスマスを祝う。	
1938	7 事変1周年記念祈祷会を開く。	
1939	6 婦人会は岡山陸軍病院を慰問する。	
1940	9 礼拝において国民儀礼を行う。	6 日本基督教団が成立する。組合教会は解散する。
	11 金属品献納運動に参加する。	
1941	9 国防献金に関する献金要請を受ける。	10 教団第三部総会を開く。
1942		
1943		4 教団第三部は解散する。

資料2 教会の所在地・種別・教師

・資料は『日本組合教会便覧』による

	所在地	種別	教師
1906	岡山県都窪郡倉敷町988	独立教会	溝手文太郎
1907	同上	独立教会	溝手文太郎
1908	岡山県都窪郡倉敷町大字東本町	独立教会	溝手文太郎・東方ひな
1909	同上	独立教会	溝手文太郎・東方ひな
1910	同上	独立教会	溝手文太郎・東方ひな
1911	岡山県都窪郡倉敷町1001	独立教会	溝手文太郎・東方ひな
1912	同上	独立教会	東方ひな
1913	同上	独立教会	東方ひな
1914	同上	独立教会	東方ひな
1915	同上	独立教会	東方ひな
1916	同上	独立教会	竹中悦蔵・東方ひな
1917	同上	独立教会	竹中悦蔵・東方ひな
1918	同上	独立教会	杉田譲二・東方ひな
1919	同上	独立教会	東方ひな
1920	同上	教会	東方ひな
1921	同上	教会	東方ひな
1922	同上	教会	東方ひな
1923	倉敷市旭町679-1	教会	田崎健作・東方ひな
1924	同上	教会	田崎健作・東方ひな
1925	同上	教会	田崎健作・東方ひな
1926	同上	教会	田崎健作・東方ひな・木下喜一郎
1927	同上	教会	田崎健作・東方ひな
1928	同上	教会	田崎健作・東方ひな
1929	同上	教会	田崎健作・東方ひな
1930	同上	教会	田崎健作・東方ひな・宇野勇次・藤沢貞子
1931	同上	教会	田崎健作・東方ひな・宇野勇次・藤沢貞子
1932	同上	教会	田崎健作・東方ひな・宇野勇次・藤沢貞子
1933	同上	教会	田崎健作・東方ひな・宇野勇次
1934	同上	教会	田崎健作・東方ひな・三好典之
1935	同上	教会	田崎健作・東方ひな・三好典之
1936	同上	教会	田崎健作・東方ひな・亀山典之(旧：三好)
1937	同上	教会	西田 進・東方ひな・宮内芦隆
1938	同上	教会	西田 進・東方ひな
1939	同上	教会	西田 進・東方ひな

資料3 会員数の推移

・資料は「日本組合教会便覧」による

	会員数之数				年中之増員				年中之減員				差 引	
	男	女	計	他行	受洗	告白	転入	計	就眠	転出	除名	計	増	減
1906	15	21	36	1	10	0	26	36	0	0	0	0	36	0
1907	19	33	52	8	12	0	5	17	1	0	0	1	16	0
1908	40	52	92	21	42	0	2	44	1	2	1	4	40	0
1909	45	86	112	30	21	0	2	23	3	1	0	4	19	0
1910	45	71	116	34	7	0	4	11	2	4	0	6	5	0

	会員数之数				年中之増員				年中之減員				差 引			
	男	女	計	現住	他行	戸数	受洗	告白	転入	計	就眠	転出	除名	計	増	減
1911	45	69	114	82	32	72	5	0	2	7	3	6	0	9	0	2
1912	49	77	126	88	38	77	12	0	6	18	1	5	0	6	12	0
1913	51	82	133	92	41	60	11	0	1	12	4	1	0	5	7	0
1914	54	83	137	82	55	64	2	1	4	7	1	2	0	3	4	0
1915	54	85	139	84	55	65	3	0	2	5	2	1	0	3	2	0

	教会員	現住	戸数	受洗	告白	転入	計	就眠	転出	除名	計	増	減
1916	153	89	66	15	1	0	16	1	1	0	2	14	0
1917	188	115	76	23	1	14	38	2	1	0	3	35	0
1918	192	106	80	7	1	2	10	5	1	0	6	4	0
1919	196	106	131	6	0	5	11	3	4	0	7	4	0
1920	201	93	78	8	0	2	10	3	2	0	5	5	0

	教会員	男	女	現住	戸数	受洗	告白	転入	計	就眠	転出	除名	計	増	減
1921	226	93	133	112	92	24	2	5	31	2	4	0	6	25	0
1922	179	68	111	137	120	22	0	2	24	1	4	66	71	0	47
1923	245	105	140	198	165	37	1	39	77	1	10	0	11	66	0
1924	308	140	168	238	190	53	0	16	69	4	2	0	6	63	0
1925	337	154	183	241	219	24	1	17	42	3	10	0	13	29	0
1926	356	167	189	252	237	25	0	11	36	2	15	0	17	19	0
1927	384	172	212	257	259	36	1	8	45	8	9	0	17	28	0
1928	404	182	222	245	254	27	0	7	34	3	5	6	14	20	0
1929	446	197	249	220	260	39	1	6	46	4	0	0	4	42	0
1930	494	221	273	432	217	54	1	4	59	1	10	0	11	48	0
1931	540	232	308	302	300	58	0	3	61	3	12	0	15	46	0
1932	541	233	308	340	260	22	0	10	32	5	26	0	31	1	0

	教会員	男	女	現住	同甲	戸数	受洗	告白	転入	計	就眠	転出	除名	計	増	減
1933	560	240	320	355	295	221	20	1	8	29	1	9	0	10	19	0
1934	568	240	328	336	280	223	17	0	6	23	3	12	0	15	8	0
1935	582	243	339	340	270	225	15	1	7	23	5	4	0	9	14	0
1936	590	248	342	348	300	228	19	1	1	21	2	11	0	13	8	0
1937	613	257	356	345	297	234	17	0	13	30	2	5	0	7	23	0

	教会員	男	女	現住	同甲	戸数	基督者 家庭	受洗	告白	転入	計	就眠	転出	除名	計	増	減
1939	600	245	355	315	257	225	18	5	0	7	12	5	11	0	16	0	4

資料4 小児会員・日曜学校・礼拝祈祷会出席者数の推移

・資料は『日本組合教会便覧』による

	小 児		日 曜 学 校	
	受 洗	在 籍	在 籍	出 席
1906	0	7	75	45
1907	1	8	105	70
1908	5	8	110	60
1909	0	8	110	60
1910	0	8	83	63

	小 児		日 曜 学 校		礼 拝 会 衆
	受 洗	在 籍	教 師	生徒出席	
1911	0	0	3	66	16
1912	0	0	5	63	15
1913	8	8	5	60	13
1914	0	7	5	62	13
1915	0	7	3	65	13

	小 児		日 曜 学 校			礼 拝 出 席	祈 禱 会 出 席
	受 洗	在 籍	校 数	教 師	生 徒		
1916	2	8	1	6	105	17	13
1917	1	9	1	6	98	20	14
1918	0	9	1	8	65	19	11
1919	1	10	2	4	130	18	8
1920	0	7	2	6	120	22	9
1921	2	9	—	—	—	24	9
1922	1	10	—	—	—	25	10
1923	2	9	4(1)	11(2)	150(3)	56	16
1924	9	18	4	12	154	76	19
1925	1	19	4	11	127	80	17
1926	0	19	2(4)	11	127	77	19
1927	0	16	1	11	100	77	19
1928	1	10	2	14	111	86	24
1929	0	9	2	16	107	89	28
1930	1	10	2(5)	16	115	98	32
1931	2	12	2	23	115	84	37
1932	2	12	2	17	120	77	31
1933	2	13	2	15	108	73	35
1934	0	13	2	16	92	71	38
1935	15	27	2	15	100	63	32
1936	4	28	2	15	95	65	30
1937	2	30	2	14	98	62	28

	小 児		日 曜 学 校			礼 拝 出 席	祈 禱 会 出 席
	受 洗	在 籍	校 数	教 師	生 徒		
1939	27		2	12	72	52	23

- (1) 4校は倉敷・笹沖・酒津・中島である。 (2) 教員数は倉敷の教師のみである。
 (3) 数値は出席者数平均数である。 (4) 2校は倉敷・笹沖である。他は休校している。
 (5) 分校は船倉である。

資料5 教会会計の推移

・資料は「日本組合教会便覧」による

	諸 集 金							財産 総額	
	教会常費	伝道会社 寄付金	其の他 の費用	日曜学校 集 金	会堂建築 修繕金	慈善金	其の他 の集金		計
1906	330.00	0	30.00	0	0	40.00	0	400.00	0
1907	660.00	33.00	30.00	0	0	32.00	0	755.00	0
1908	684.00	35.00	130.00	0	0	12.00	30.00	891.00	0
1909	953.78	42.50	0	4.50	0	12.00	2.00	1,014.78	0
1910	922.36	51.20	21.00	6.62	0	15.00	12.00	1,028.18	0
1911	867.65	62.90	25.90	10.41	24.45	10.00	15.00	1,016.31	1,000.00

	諸 集 金							財 産 総 額		
	教会常費	伝道会社 寄付金	其の他 の費用	日曜学校 集 金	会堂建築 修繕金	其の他 の集金	計	動 産	不動産	計
1912	487.79	57.40	34.73	6.80	8.68	15.50	610.90	1,200.00	900.00	2,100.00
1913	284.40	77.27	26.91	6.00	3.09	15.00	412.67	1,300.00	500.00	1,800.00
1914	277.79	65.00	83.29	5.29	7.00	28.00	466.37	1,550.00	500.00	2,050.00
1915	305.68	69.00	62.90	7.77	3.00	35.00	483.35	1,833.00	500.00	2,333.00

	諸 集 金						財産 総額
	教会常費	日 曜 学校費	会 堂 建築費	其の他 の集金	伝道部 寄 付	計	
1916	391	33	23	119	61	627	2,462
1917	855	30	5	75	72	1,036	3,000
1918	693	37	0	48	80	853	3,500

	教会常費	日 曜 学校費	会 堂 建築費	其の他 の集金	本部寄付	計	財産 総額
1919	757	45	5	130	139	1,076	5,400
1920	871	80	50	129	129	1,239	7,400
1921	992	80	0	196	161	1,429	10,400
1922	1,038	143	0	82	359	1,622	7,400
1923	3,053	203	66,745	0	355	70,356	72,100
1924	3,417	184	0	2,042	369	6,012	72,100
1925	4,010	137	0	1,470	418	6,035	72,100
1926	3,950	110	0	1,575	423	6,058	79,660
1927	3,819	153	0	265	615	4,852	82,660
1928	2,767	120	54	1,170	618	4,729	82,660
1929	2,763	120	43	1,058	767	4,751	72,487
1930	3,080	120	5,080	1,186	525	9,991	77,600
1931	4,401	120	77	693	650	5,941	77,600
1932	3,539	120	0	570	636	4,865	77,600
1933	3,829	120	0	767	712	5,428	77,705
1934	3,589	120	0	522	820	5,051	75,920
1935	3,197	120	1,500	2,159	644	7,620	75,776
1936	3,766	270	0	301	829	5,166	75,969
1937	3,552	202	0	279	703	4,736	75,148
1939	3,013	150	0	290	1,451	4,904	83,599